



♪新着案内♪

図書だより 12月号



平成 27 年 12 月 21 日 輪島市立輪島中学校

今月は、自分の住んでいる県により愛着や親近感を持ってもらいたくて、石川県出身の作家の特集をします！とても有名な作家の本から名前を初めて聞くかもしれない作家の本まで集めました。

「国選ペテン師 千住庸介」(デビュー作です。)

しろやま 城山 真一 / 著(七尾市出身)

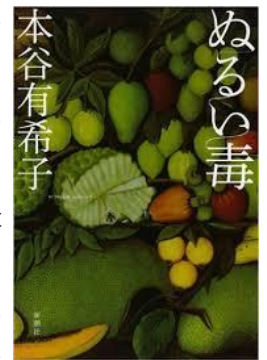
詐欺グループのトップにいたヨウスケは、平凡な人生を歩むため銀行員になり過去を忘れようとしていたのだが、謎の中年女性が現れ、自分の組織に入るようにしつこく誘う。なんと金融庁の職員にスカウトされた彼は天才的なスキルを生かし日本経済を救うまでに成長する。



「ぬるい毒」

もとや 本谷 有希子 / 著(金沢市出身)

本作品は、野間文芸新人賞受賞作で、芥川賞候補にもなりました。ある日突然電話をかけてきた同級生という男の嘘にどうしようもなく魅了されてしまう主人公の女性は本当に自意識過剰。読んでいると心が締め付けられるようなリアルで凄みのある心理描写に圧倒されます。



この著者に注目！

金沢市在住の城山真一さん(金大法学部卒業)は、「ザ・ブラック・ビーナス」(来年1月に発売予定)という作品で2015年「このミステリーがすごい大賞」を受賞しています。

過去の受賞者は、「チーム・バチスタの栄光」の著者である海堂尊さんなど、そうそうたるメンバーがおり、城山さんも今後大活躍しそうな予感がします！



うたかたびと 「泡沫人」

あまのがわ 天ノ川 瞬 / 著(石川県在住の10代)

この本のタイトルの意味は『はかなく消えてゆく人』。人の命や出会いのむなしさを泡に例えているようです。主人公の中3恵輔は、冬休み前に近所に引っ越ししてきた若い女性、幸と友達になる。しかし、幸には秘密があった。驚きと感動の結末にはおもわず、涙が出そうになる。

書いた時は
高校生。



こうやひじり 「高野聖」

きょうか 泉 鏡花 / 著(金沢市出身)

あの芥川龍之介が天才と呼んだ金沢の三文豪の一人です。旅をする修行僧が飛騨の奥深い山中で出会った女性との奇妙な怖い体験を語る。著者は、幽霊や妖怪を本当にいると信じていたらしく本作品にも色濃くその影響が出ています。現代語訳で読みやすい！

